

# 第二回UNISEC衛星 情報共有化のための取り組み

2011年度 UNISON代表

東工大 牟田 梓

の

代打 筑波大 岡村・嶋津

- (事前にメール配布済み)
- 前回会議の議事録
- みなさんからいただいたご意見
- 企画書(案)\_ver2
- 規約\_ver111014
- 申込書

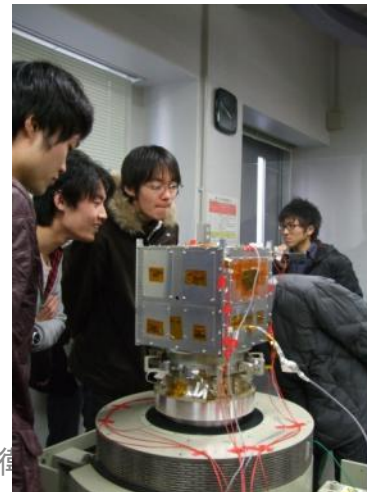
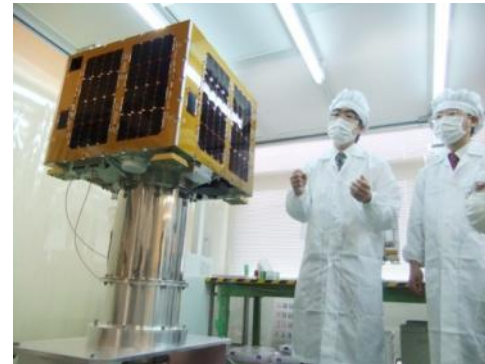
- 13:00～18:00
- はじめに(5分)
- 自己紹介(10分)
- 前回会議・メール等のおさらい(30分)
- ①みんなが参加したくなるための工夫とは？(2時間)
- ②企画書・規約・誓約書・テンプレの確認(1時間)
- ③WS2011に向けての準備(1時間)

# はじめに



- 2011年現在 17団体14機の衛星を開発中
- (むた調べ。漏れがあったらごめんなさい)

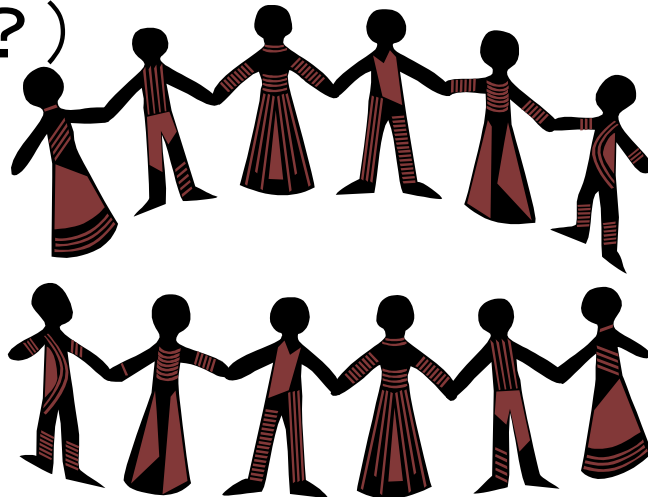
北海道工業大学 佐鳥研究室  
 東北大学 吉田・永谷研究室  
 東京大学 中須賀研究室  
 東京工業大学 松永研究室  
 首都大学東京 宇宙システム研究室  
 日本大学 宮崎研究室  
 東京理科大学 木村研究室  
 都立産業技術高専 宇宙科学研究同好会  
 創価大学  
 筑波大学宇宙技術プロジェクト(STEP)  
 帝京大学 宇宙システム研究会  
 大阪工業大学 宇宙推進工学研究室  
 大阪府立大学 小型宇宙機システム研究センター(SSSRC)  
 香川大学工学部能見研究室  
 九州工業大学 衛星開発プロジェクト / 趙・豊田研究室  
 九州大学 宇宙機ダイナミクス研究室 (SSDL)  
 日本文理大学 大江研究室  
 鹿児島大学



- が、しかし
- 各々がばらばらに衛星開発をしてる？
- 独自衛星間のつながりが薄い。。。
  
- UNISECとして技術やノウハウを共有できればよりよい開発ができるはず！
  
- ということで
- 今年度は独自衛星間のつながりを強化
- (けど、開発に大きな支障のない程度に)
- していきたいと考えています

# この取り組みの目的

- この企画の最終目的
    - UNISEC衛星団体に技術・ノウハウ情報を共有する
- ↓
- 各団体の開発が促進される
  - UNISECとして、なにか一つのことができる可能性を作る (UNITEC-2?)



# 本日の目的

- 前回ざっくり決めた概要の詳細を詰める
- = (他団体募集開始ができて、WSで発表会が持てるくらいまで。)
  - ①メール等でいただいた意見を受けて議論・修正
  - ②企画書・規約・誓約書・テンプレの(とりあえずの)完成
    - 12月以降に直すのもありなので。
  - ③WSに向けた準備



- 13:00～18:00
- はじめに(5分)
- 自己紹介(10分)
- 前回会議・メール等のおさらい(30分)
- ①みんなが参加したくなるための工夫とは？(2時間)
- ②企画書・規約・誓約書・テンプレの確認(1時間)
- ③WS2011に向けての準備(1時間)

# 前回会議のおさらい

- 日時：2011年10月7日（金）
- 場所：東工大
- 内容：
  - 情報共有の利点/欠点
  - 共有する内容・方法
  - 共有する人の制限

# 前回会議のおさらい

- 情報共有の利点/欠点
  - 利点:自分たちの開発に役立つ
  - 欠点:機密情報の流出/考えなくなる/真偽が不明
- 共有する内容・方法
  - ただ単に素子のデータだけでは使いづらい。
  - 『なんでそうしたのか?』の部分が重要
  - →発表会形式
    - 『なぜ?』の共有を図る
    - 情報を出すモチベーションとする。
    - 集まった情報を(パス付)WEBにあげる

- 共有する人の制限
  - 規約を設ける
  - 団体全員での加盟を必須とする
  - 個人の署名をとる(意識UPのため)
  - 年ごとに更新する(意識UPのため)
  - 顧問のサインを必須とする
  - 規約に違反した場合、無期限活動停止とする

# メール等でのやり取り

- 前回会議後、先生や学生に個別にメールで相談してみた

# メール等でのやりとり

- 日大 宮崎先生
  - 『なぜ？』の部分の共有が必要
    - テンプレを用意するとか
    - 日大では(衛星開発に直接関わっていない)先生が『なぜ？』をMTGで聞いているらしい
  - Give & Takeができないと続かない
    - ベテラン大学のTakeがないと。なにが分からないのかを知る、とか
- 東工大 松永先生
  - 最初の代はよくでもどんどん緩くなっていくから、情報の流出を防止できるように気をつける

# メール等でのやりとり

- 産業技術高専 石川先生
  - 取り組みに賛成。協力します。
  - 取り組みの価値を上げる(情報を提供してくれた人が評価される)仕組みが必要
    - 自己評価プログラムで評価する(先生と学生の同意を得る必要がある? どうしたらできるようになるのか確認中)
  - 最終的にはUNISECの価値を知ってもらうために、外に向けて公開してもいいんじゃないか(!?)
  - 潜在的な問題は、情報の質をいかにあげるか
    - 自己評価だけでは不十分?

# メール等でのやりとり

- 日大 井上さん(GSN代表)
  - 参加者が増えないと意味がないから、取り組み自体の価値を上げるべき
    - Takumiの衛星部門として認めてもらう
    - 最低ラインは守れるように査読かWEB投票の仕組みをつける
    - ベテラン大学のTakeが必要。新入生が『なにが分からないのか?』が分かる仕組み・ストーリーを用意する
  - ちなみにGSNでは
    - 参加方法は今のメンバーにメールする(窓口は明確にはない)
    - 守るべきは、GSNの共有Wikiのパスワードをみだりに公開しないことくらい(規約等は特にない。)
    - 情報(活動報告?)は各自が随時WEBにUPLしていく方式。滞っている場合は運営委員から声をかける



# みんなが参加したくなる工夫

- 活動に参加してくれる人が必要
- 今年だけでなく来年以降も続いていくためのモチベーションが必要
- →参加したくなる工夫が必要
  - 作戦その1: 取り組みの価値を上げる
  - 作戦その2: ベテラン大学がTakeできるものを作る
  - 作戦その3: 遠地の人を支援する
  - などなど

- 査読制度を入れる
  - 発表内容の最低限のラインを決める(ただ、「失敗しました」だけの発表などを除く意味)
  - 入れますか？

- 査読制度を入れる

- 賛成派:

- 次回への参加意識を低下させるかも。また、回を重ねるごとに発表会の質の低下が起こる原因になる可能性がある。
- やっつけな資料を排除するために必要。
- 特に最初は講演内容にばらつきが見られることが予想されるので査読はありかな

- 中立:

- 提出されたものに対して、事前にコメント(質問)を講演者に対して送付し、回答を用意してもらう。という程度であれば賛成です。

- 反対派:

- 締め切りが早まる
- 委員への負担は？

- Takumi Journalと関連させる
  - 一部門化してもらえようように働きかける
  - 良いものをTakumiに出してみる(この取り組み発だと分かるようにできたら良い?)
  - か、完全に住み分けるようにする
    - 技術ノウハウ(初級～中級) UNISEC情報共有WEB
    - 技術ノウハウ(中級～上級) Takumi Journal
    - 研究ノウハウ 通常論文

Takumiとの兼ね合いをどうするか?

- 自己評価プログラムで評価されるようにする  
– 方法が不明？

自己評価との兼ね合いをどうするか？

- データの質を高める
  - アンケートのようなものでFBする。(←どんなアンケート?)
  - フォーマットをすることで管理側(運営委員会)と発表する側も楽になる。
  - 発表者に対して+運営側(ex.フォーマットの評価)を評価できるなにかがあってもいいのかな。。。

データの質を高める方法として何をとるか？

- ベテラン団体がtakeできるものがないとデータベース構築が進まない/続かない



- ベテラン大学がtakeできるものを考え
- Takeしやすいような仕組みを作っていく必要がある

- 直接的Take
  - 新生の失敗パターンを知る機会
  - 衛星知恵袋(Point制)(←Pointでなにができるのか)
  - 海外の人やアマチュア無線の人でも参加できる
  - ベテラン大学同士の情報交換の場
  - 他大学から得られた情報を管理する手間が省ける
  - UNISECの支援金が増額される, とか...(←自己評価プログラムか?)
- 間接的Take
  - 各大学(後発組)のミッションやアイデアの広がりや発展を聞く→新たな衛星の開発意欲・ミッションの策定材料。教育的な面で広げていく
  - 社会に役に立っているという気持ちの面
- 役割分担
  - Giveされる側が情報の書きやすいフォーマットを作ってTake側に頼む
  - 各報告会のセッティングを新規団体が負担し, 発表自体は最初の方はベテラン団体がおこなう

とりあえず最初はどのTakeを狙って、  
どういう仕組みでそれがtakeできるようにするのか？



- 前提条件

- 運営委員(発表者も多分OK)の交通費はUNISONから支援できる(はず)
  - ARLISSや能代の運営委員の旅費は支援されるので
- 参加者の交通費はUNISONでは支援できない
  - ARLISSや能代の参加者も然り
- これだと遠地の方は参加しづらい？
- もし交通費支援をするのであれば、取り組み参加者内で会費を集めて、少額でも支援する

# 作戦その3:遠地の人を支援する

- 賛成
  - 金銭面が楽になり、行きやすくなる
  - Skypeだと雰囲気伝わりにくいところがある
  - 遠地にも有益な情報をもっている団体があるためそこに来てもらえるようにしなければ意味がない。
  - “有益な情報をもっている”かの選別はできない(してはいけない?)ので遠地であれば一律で補助をするべき。
  - UNISECという組織がいろんな地域の団体を巻き込むというコンセプトだと思うので。
- 反対
  - WSと総会はUNISECから援助があるので、春・秋のみを考慮すると場所を転々とさせれば問題は解消される。
  - もし援助するとすると会場毎に「遠地」を定義する必要アリ
  - 欲しい情報を得たいために自ら参加するものであり、少々の負担は必要なのでは？
  - 大げさになり過ぎる？懇親会だけ近いメンバーが負担とかでもいいよね
  - 一般の方たちにはなくても良いかなと思います。UNISEC WS等と同じに扱う方が管理しやすそうですし。
- どちらともいえない
  - 参加費が高くなってしまいかねないような...それでは意味がない気がします。

# みんなが参加したくなる工夫

- その他宿題ででたアイデア・考え方
  - 人的ネットワークの構築を売りにする
    - モチベーションの高い人材と触れ合える機会こそがメリット
    - 話し合いにより“縁”ができている
    - オフィシャルでない集まり(お酒を飲んで仲良くなるとか)・(リーズナブルな)飲み会
    - UNISECにいて楽しいと思えることが必要
  - 見学会を付随させる
    - 各大学の見学会ツアー
  - 形式を工夫する
    - データベースの冊子化(来た人はもらえる)知識・知恵のハード化
    - 着の身着のまま行けるようなものもいい(敷居を低くしたい)
    - フォーマットを作る
    - facebookなどにあるような「いいね!!」などの機能をデータベースにつける。
  - 有識者を呼ぶ
    - 先生・アマチュア無線家・海外の方など

- まとめ
  - 査読はいれますか？ YES/NO
  - Takumi・自己評価との兼ね合いはどうしますか？
  - データの質を高める工夫は？
  - ベテラン団体のTakeは何と設定しますか？
    - またそのための仕組みは？
  - 遠地支援をしますか？

(休憩をはさむ)

- 13:00～18:00
- はじめに(5分)
- 自己紹介(10分)
- 前回会議・メール等のおさらい(30分)
- ①みんなが参加したくなるための工夫とは？(2時間)
- ②企画書・規約・誓約書・テンプレの確認(1時間)
- ③WS2011に向けての準備(1時間)

- 企画書/規約/申し込み書を一読して、
  - 前の議論より、修正が必要な箇所の確認
  - 他にもおかしい点があれば議論
- テンプレの確認

- 13:00～18:00
- はじめに(5分)
- 自己紹介(10分)
- 前回会議・メール等のおさらい(30分)
- ①みんなが参加したくなるための工夫とは？(2時間)
- ②企画書・規約・誓約書・テンプレの確認(1時間)
- ③WS2011に向けての準備(1時間)

- 初期メンバーの役割分担案
  - 代表: 牟田(3月までですが。)
  - 参加メンバーの管理
    - 田中さん(慶應)、草野さん(東海大)
  - 発表会の実施
    - 別所さん(府大)、岡村さん(筑波大)
  - WEBデータベースの管理
    - 養王田さん(首都大)、毛内さん(創価大)、嶋津さん(筑波大)
  - UNISEC・UNISONへの活動報告
    - 牟田(東工大)、狩谷さん(帝京大)、次期代表



- 参加メンバーの管理
  - 規約・申し込み書の最終Fix
  - 参加団体募集
  - 参加団体管理
  - (告知用のMLとかつくるんでしょうかね?)
  - 説明会の取り仕切り
    - この取り組みの意図や守るべきルールの説明
    - 運営委員の仕事説明など
  - 発表会の参加者募集

- 発表会の実施
  - 発表用テンプレの最終Fix
  - 講演者決定（査読のとりまとめ）
  - 会場のセッティング
  - 発表会のとり仕切り

- WEBデータベースの管理
  - WEB上の仕組みの作成
    - 階層構造
    - タグ付け
    - パスワード
  - 発表資料のアップロード

- UNISEC/UNISONへの活動報告
  - ワークショップでの報告(パワポ)
  - 年度末に活動報告(ワード)
  - UNISEC2011活動報告CD-ROMに入れ込みたい
  - 総会での報告(パワポ)

# WS前日会議の内容

- 日時：
  - 12/9(金)21:00～24:00(←4限出た後の飛行機で間に合う時間)
- 場所：
  - 九工大 仙水荘 大広間(すでに予約済み)
  - 雑魚寝で良ければ男子は寝れるかも。
- 参加者：
  - 初期メンバー+参加してくれる団体の代表者(←理想)
  - skypeが使えないか聞いてみます
- 内容：
  - [参加管理]初期メンバー以外の団体への趣旨説明+仕事分担
  - 新メンバーからの意見を伺う
  - [発表会]3月の発表会の詳細(場所・発表者)
  - [発表会]次の日の発表会の準備
-

# WS発表会の内容

- 日時
  - 12月10日(土)17:15~19:15
- 場所
  - 九工大 C-1B(収容人数150人)
- 発表テーマ
  - 環境試験での経験談？
- 発表者
  - TBD(要打診)
- 報告
  - 12/11(日)午後のWG活動報告で報告します



# WSまでのスケジュール案

日程	内容
11/6(日)	第二回情報共有会議
	[参加管理・発表会]諸々書類Fix・告知文面の作成
11/14(月)	[参加管理]参加団体募集・発表会への出欠開始 [発表会](↑合わせて)講演者の募集
	[参加管理]個別に参加団体の打診 [発表会]個別に講演者の打診
11/25(金)	[発表会]講演者の決定
12/5(月)	[参加管理]参加団体募集・発表会への出欠×切
(12/5~8)	[発表会]やるならば査読?今回は省略?)
12/9(金)	第三回情報共有MTG
12/10(土)	[発表会] <b>第一回発表会</b>
12/11(日)	[報告]WG活動報告
12/16(金)	簡単に初期メンバーで反省会→UNISEC忘年会
年内	[WEB]WEB第一版のUP(=WEBの第一版完成目標)

日程	内容	備考
2月	[参加管理] 発表会への出欠開始 [発表会](やるならば査読)	
3月	[発表会]発表会の実施 (合わせて)反省会&引き継ぎMTG [WEB]WEBへのUP(WEBの第二版完成目標)	初期メンバーはなるべく7月までは残留 新代表者の選出
6月	[参加管理]参加団体募集	
7月	[参加管理]趣旨説明+役割分担 [発表会]年間発表会の詳細決定・発表会の実施	
	...	



長時間のMTGお疲れ様でした！  
WSに向けて頑張っていきましょう！  
どうぞよろしくお願ひします！